



2025年3月期(84期)第2四半期(中間期)
決算説明資料

2024年11月7日

石井食品株式会社
(東証スタンダード:2894)

イシイの
本気は、
裏に出る。

主要商品は堅調、増収着地も、成長に向けた投資コスト増で減益 コスト削減施策を講じるも、想定を超えたコスト増により減益幅が広がる

● 食品業界の経済環境は厳しい状況

雇用・所得環境の改善、個人消費の回復に対する期待などにより、景気は緩やかな回復の動きが見られました。一方で、円安傾向の継続、資源・エネルギー価格の高騰に伴う物価高による賃金や年金の実質的な減少が個人消費に影響を及ぼしており、食品業界においては、消費者の節約・低価格志向も相まって、依然として厳しい状況であります。

● 売上高は堅調

営業活動の継続強化、キャンペーン等の販売促進施策を定期的実施したことにより、売り場獲得および活性化を実現。また、これまで苦戦傾向にあった夏場は、新たなニーズの取り込みにより克服。この結果、このような経済環境の中でも、50周年を迎えるミートボールを中心として売上高は堅調に推移しております。加えて、お客様とのコミュニケーション機会を増やすことを目的として、当社工場見学の再開やファンイベントなど積極的に様々な施策を講じております。

● 当初より投資コスト増加で減益見込みであり、加えて、想定を超えたコスト増により減益幅広がる

コスト面では、持続的な組織力向上のための増員や生産設備およびITシステムへの継続的な投資により、人件費および減価償却費が増加。加えて、物価高の影響などにより、その他のコストも全般的に増加しております。また、運搬費などの一部は、当初想定を超えて増加し、利益を圧迫しております。この結果、黒字を確保したものの、前年対比で大きく減益となっております。

2025年3月期第2四半期-連結業績

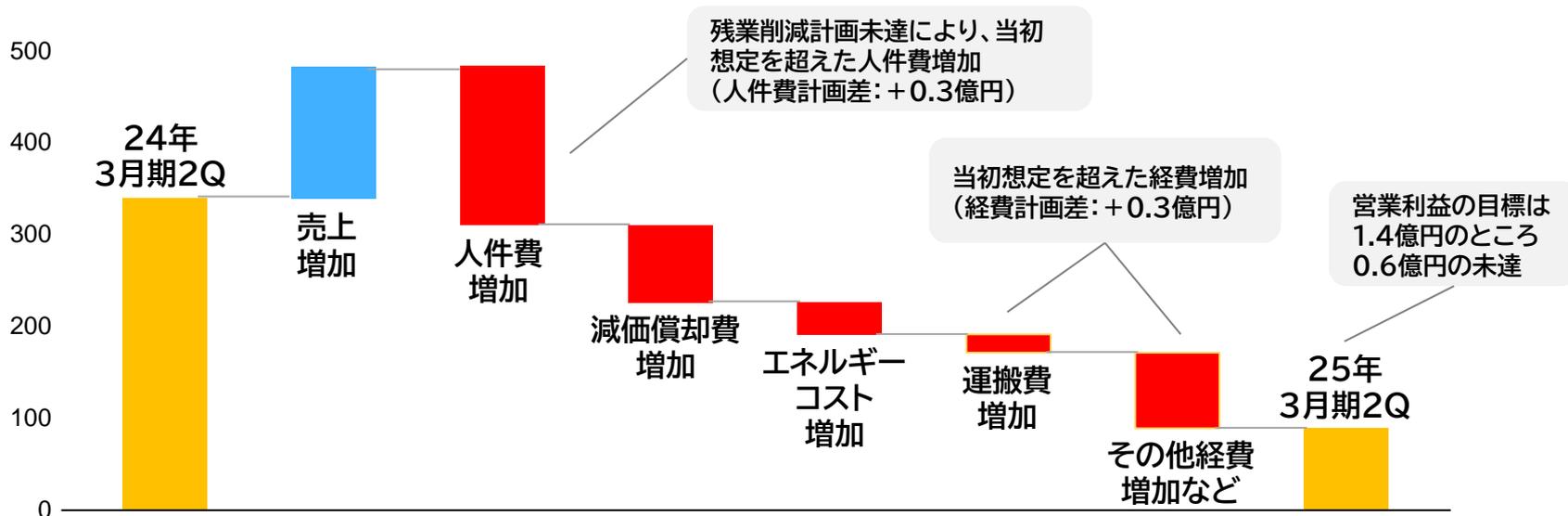
- (1) 売上高は54億円で2.5億円の増収。
- (2) 営業利益は0.8億円で、コスト増加により2.5億円の減益。
- (3) 当期純利益は0.3億円で、1.5億円の減益。

(単位:百万円)

	23/3期2Q	24/3期2Q	25/3期2Q	前差
売上高	4,519	5,152	5,403	+251
売上総利益	1,275	1,838	1,773	△64
営業利益	△111	338	88	△250
経常利益	△105	357	98	△258
当期純利益	△113	190	34	△155
EBITDA	△19	437	270	△166

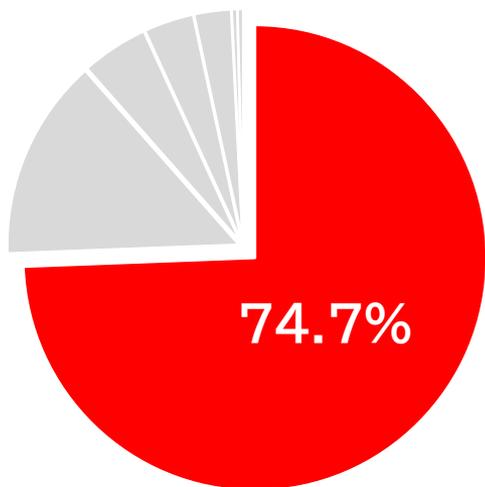
2025年3月期第2四半期-営業利益

- (1) 売上堅調も固定費の増加により、前年同期の営業利益3.3億円と比べ、当期は0.8億円となり2.5億円の減益。
- (2) 人件費は、組織力向上のための人財増員およびベースアップ実施などにより増加。
加えて、生産性改善等で見込んでいた残業削減も計画未達で、想定よりも増加。
- (3) 生産設備およびITシステムへの継続的な投資により減価償却費は増加。
- (4) エネルギーコストは増加するも想定内。しかし、想定を超えて運搬費等の経費が増加。



2025年3月期第2四半期-商品群別実績 ミートボール

(単位:百万円)



	24/3期2Q	25/3期2Q	前年比	前差
売上高	3,810	4,034	106%	+224

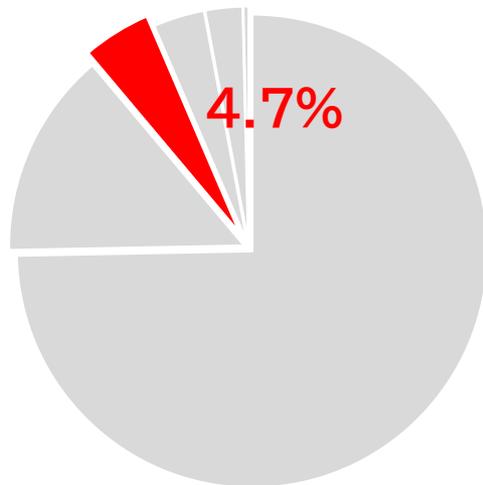
■トピックス

- これまで苦戦傾向にあった夏場の営業活動は克服状況にある。「ミートボール50th」を中心とした販売促進につながるアクションプランを実施。お弁当ニーズに対し、定期的なキャンペーン施策を実施し、売り場を確保・活性化することができたほか、大人向けでは「ミートボール居酒屋」キャンペーンを実施し、新たな食卓ニーズの開拓強化を推進。
- お客様とのコミュニケーション機会を増やすことを目的として、当社工場見学の再開やファンイベントなど積極的に様々な施策を講じた。



2025年3月期第2四半期-商品群別実績 惣菜

(単位:百万円)



	24/3期2Q	25/3期2Q	前年比	前差
売上高	298	252	85%	△45

■トピックス

- 原材料高騰や調達環境の悪化に加え生産拠点の合理化などの要因により、ごぼうサラダの減産を引き続き行っている結果、売上高は減少。
- 米価格高騰の要因から、「まぜごはんの素」に販売影響が出ている。一方で、旬の食材を使用した「栗ごはんの素」などは、悪天候による栗の収穫減ではあったが、引き続き贈答や季節限定のプレミアム感の魅力から、安定的な需要を確保。



2025年3月期第2四半期-商品群別実績 地域商品

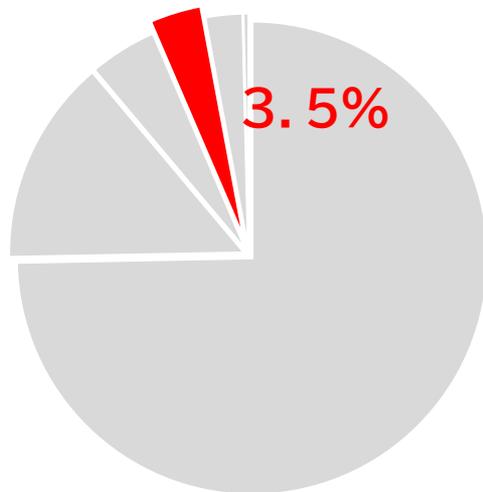
(単位:百万円)



	24/3期2Q	25/3期2Q	前年比	前差
売上高	176	191	109%	+15

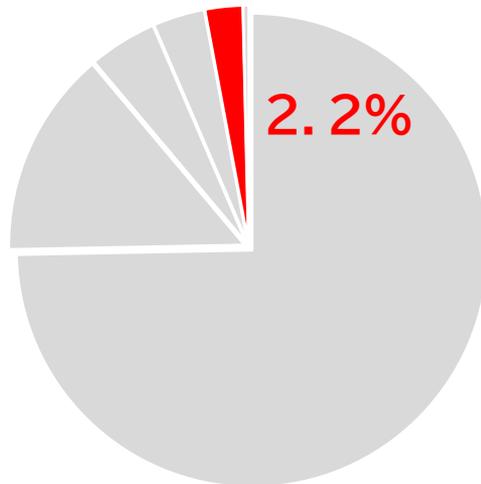
■トピックス

- 各地域の旬の素材を活かしたハンバーグシリーズを中心に、市政70周年を迎えた「おおつき タマネギフェスタ」や、恒例となった「まる曾玉ねぎ 収穫祭」など、地域交流イベントへの参加をはじめ、これまで以上に地域に根付いた販売促進活動を強化。
- 行政や生産者と一体となった施策や取り組みを積極的に展開。



2025年3月期第2四半期-商品群別実績 非常食

(単位:百万円)



	24/3期2Q	25/3期2Q	前年比	前差
売上高	72	118	165%	+46

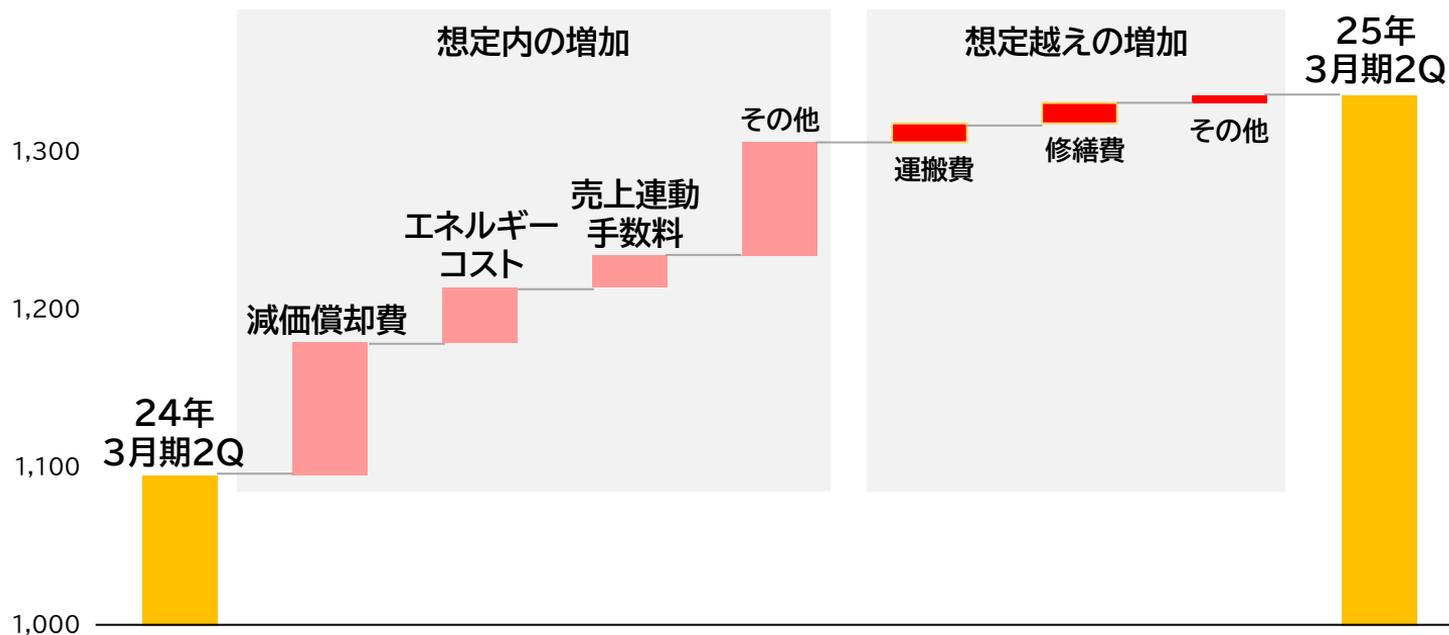
■トピックス

- 非常食をはじめとする常温商品において、企業福利厚生やオフィスコンビニでの導入などによる新たな販路での採用。
- 一般家庭など個人消費における災害備蓄やローリングストックなどの中長期保存食のニーズの高まりから、需要増。
- 特に非常食においては、連結子会社(株)ダイレクトイシイが運営する石井食品公式無添加調理専門店「イシイのオンラインストア」での販売を中心に好調に推移。



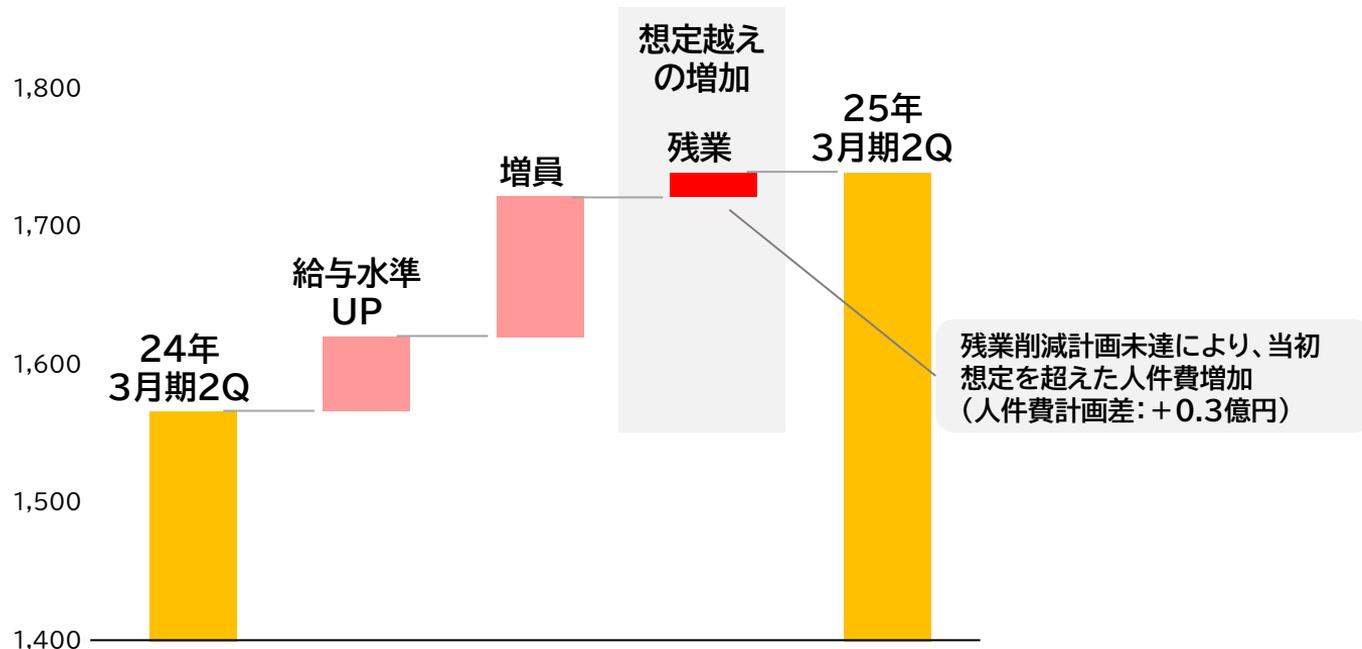
経費分析

- (1) 生産設備およびITシステムへの継続的な投資により減価償却費は増加。加えて、物価高の影響などにより、その他のコストも全般的に増加。
- (2) 運搬費が当初想定を超えた単価上昇のほか受注増に伴う臨時配送および工場間移送によって増加するなど、一部経費については、想定を越えて増加。



人件費分析

- (1) 持続的な組織力向上のための人財の獲得、およびベースアップなどによる給与水準のアップのため、人件費は増加。
- (2) 残業については、生産ラインの改善、生産計画の合理化や在庫の適正化による生産性向上を進めることで残業抑制を図ったが、生産増等の影響もあり効果が想定より出なかったことで、前年より増加。



2025年3月期第2四半期-財務状況

(1) 現預金は前年同期比では減少しているが、十分な流動性を維持。

(2) 純資産は約3億円増加。自己資本比率は+5.1ptで45.4%。

(単位:百万円)

	24/3期2Q	25/3期2Q	前差
現預金等	2,473	1,801	△672
資産合計	7,718	7,453	△264
有利子負債	1,931	1,986	+55
負債合計	4,606	4,069	△536
流動比率	116.2%	112.6%	△3.6%
純資産合計	3,112	3,384	+272
自己資本比率	40.3%	45.4%	+5.1%
営業CF	755※	△256	△1,012
投資CF	△169	△322	△152
財務CF	△56	△77	△20

※2024年3月期第2四半期営業CFは当期純利益及び減価償却費の増加のほか、期末の曜日回りの影響もあり大幅に増加。
(曜日回りの影響を除いた営業CFは約4億円と推定、前年(2023年3月期)同期比較で約3億円の増加)

2025年3月期-通期業績予想の修正

- (1) 売上高は堅調に推移し、計画を上回る見込み。
- (2) しかしながら、予測を上回る原材料費の高騰、運搬費の上昇および修繕費の増加などに加え、残業削減計画の未達により人件費が増加する見込のため、原価上昇により営業利益以降の予想値は前回予想を下回る見込み。
- (3) 原材料費等の原価高騰による利益率悪化に対して、適宜値上げの検討は進めている。
- (4) 今後も様々な要因で変動する可能性があるため、業績予想について修正が必要となる場合は速やかに開示予定。

(単位:百万円)

	23/3期 (実績)	24/3期 (実績)	25/3期 (前回予想)	25/3期 (今回予想)	前回予想と の差
売上高	9,549	10,492	10,710	10,900	+190
営業利益	219	413	250	100	△150
経常利益	256	457	280	130	△150
当期純利益	308	471	165	80	△85

本資料は情報提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
本資料(業績予想を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいて弊社が作成したものでありますが、実際の業績等は、さまざまな要因により大きく異なることが起こります。